

認知症治療法など紹介

徳大病院フォーラム

認知症やがんをテーマにした「徳島大学病院フォーラム2026春」(徳島大学病院主催、徳島新聞社共催)が1日、徳島市の同大蔵本キャンパスで開かれた。同病院の医師8人が最新の治療法や病気の向き合い方などを紹介し、約550人が耳を傾けた。

2部構成で行われ、第1部は認知症や心の健康などを取り上げた。脳神経内科の花田健太特任助教(写真)はアルツハイマー病について「アミロイドベータという脳内にたまるごみが蓄積した状態で、これが続くと認知症になる」と説明。アミロイドベータを取り除く最新の治療薬「レカネマブ」と「ドナネマブ」の効果や治療の流れを解説した。

治療薬で認知機能の悪化を半年ほど遅らせられた効果を示す一方、「認知症を完全に治すことはできない。投与の対象は症状が軽く、日常生活がある程度できる人なので、もの忘れが増えたら早めにかかりつけ医に相談してほしい」と呼びかけた。

究「データもある」と指摘。「運動器がうまく使えなければ移動ができなくなる。『がんだから膝の手術をしなくていい』と治療をあきらめる時代ではない」と訴えた。(山口和也)

第2部は、がんそのものや、がんの治療が原因で運動機能が低下する「がん口コモ」をテーマに解説した。整形外科の西庄俊彦副診療科長は、治療法の進歩でがんでも長生きできるようになった半面、「がん患者の97%が口コモだったとの研



徳島新聞令和8年3月2日掲載
コピー、転載禁止